

【解説文】

1

借屋請状之事<sup>①</sup>

一、此三太郎<sup>②</sup>申者御抱家借宅居申候、  
 壹ヶ年三拾目二相定申候、右之内ハ  
 七月二分、極月二分指出シ申  
 約速<sup>③</sup>二而御座候、若不埒御坐候ハ、  
 請人方より相濟せ可申候、  
 一、御公儀様御法度之趣、堅相守可申候、  
 然上<sup>④</sup>、如何様成六ヶ敷儀出来仕候共  
 我等罷出、急度埒明可申候、為<sup>⑤</sup>其  
 請人二筆加判如<sup>⑥</sup>件、

舉

長樂堂の御宅の納屋の図



3

一、私居宅式軒二<sup>⑦</sup>、表式間三尺三寸、裏入拾六間半、但  
 建家之入五間御座候処、此度裏之方<sup>⑧</sup>江梁九尺二  
 桁行式間半之薄瓦葺納屋<sup>⑨</sup>ケ所建申度  
 奉<sup>⑩</sup>願候、則繪図仕指上申候、此段御赦免被<sup>⑪</sup>為<sup>⑫</sup>  
 成候様宜被<sup>⑬</sup>仰上被<sup>⑭</sup>下候ハ、難<sup>⑮</sup>有可<sup>⑯</sup>奉<sup>⑰</sup>存候、以上、

2

奉<sup>⑱</sup>願口上之覚

银山町

一、私儀式拾四ヶ年以前、银山町年寄役被<sup>⑲</sup>為<sup>⑳</sup>仰付<sup>㉑</sup>  
 相動来候處、去々冬<sup>㉒</sup>締改所頭取格被<sup>㉓</sup>為<sup>㉔</sup>  
 仰付<sup>㉕</sup>難<sup>㉖</sup>有仕合奉<sup>㉗</sup>存候、尤右町役儀其儘兼候様  
 二と被<sup>㉘</sup>為<sup>㉙</sup>仰付<sup>㉚</sup>二奉<sup>㉛</sup>畏候、相場御會所日勤之儀ハ  
 勿論、内御用向<sup>㉜</sup>被<sup>㉝</sup>為<sup>㉞</sup>仰付<sup>㉟</sup>置<sup>㊱</sup>相動申候二付  
 町役相兼居申候而<sup>㊲</sup>、時二寄甚指箇之儀<sup>㊳</sup>御座候而<sup>㊴</sup>  
 迷惑奉<sup>㊵</sup>存候、依<sup>㊶</sup>之町役之儀御赦免被<sup>㊷</sup>為<sup>㊸</sup>遊被<sup>㊹</sup>下  
 候ハ、難<sup>㊺</sup>有仕合可<sup>㊻</sup>奉<sup>㊼</sup>存候、以上、

辰

九月七日

年寄笠岡屋

善太郎<sup>㊽</sup>

室屋

喜右衛門殿

辰

八月廿三日

京橋町大崎屋

多貫<sup>㊿</sup>

右之通吟味仕、相違無御座候、以上、

年寄繩屋

九左衛門殿

同日

年寄繩屋

九左衛門<sup>㊾</sup>

室屋

喜右衛門殿

【語句】

- (1) 請状…了承したことを示す証書。請書。
- (2) 御公儀様御法度…身元不確かな者に家を貸すことなどを禁じた天和三年（一六八三）九月の幕府令。
- (3) 綿改所…広島地方の特産物であり、専売品であった綿の流通を統制する役所。元禄十年（一六九七）に設置された。後に、綿の相場立てを行い、商人を集めて帳合取引（帳簿上での記入計算による取引）が行われるようになった。
- (4) 相場会所…米の相場立てと取引を行う会所として、宝暦五年（一七五五）に設置された。広島城下の有力町人から頭取七人、懸り役一四人が選ばれて運営に当たった。
- (5) 梁（はり）…棟に対して直角に架けられる材木（梁が架けられる方向Ⅱ「梁行（はりゆき）」）。
- (6) 桁…棟に対して平行に架けられる材木（桁が架けられる方向Ⅰ「桁行（けたゆき）」）。